

みなさん、おはようございます。

私は去る4月26日に執行された東栄町長選挙におきまして、町民の皆さまの多大なるご支援をいただき当選させていただきました。

半年前を思い起こしますと、1年の任期を残して、昨年9月末で副町長を辞任し、選挙戦に挑むことを決めました。しかし事務方のトップとして職員の皆様方には大変ご迷惑をおかけし、また、御苦勞をおかけいたしました。

選挙前の6か月間は大変でしたが、各地区をくまなく回り、いろいろな方々とお話をさせていただき、「現場を知る」ことの大切さを痛感しました。

町民の皆さまと直接対話をするためのキャッチボールトークを各地区で開催したいと思います。

また、これからの施策を進めるために重要なものは、町民参加による合意形成です。そのための町民参加のルールや仕事の進め方の基本を定めるため、早急に「まちづくり基本条例」を制定し、行政はもとより、町民同士が共に手足を動かし、汗を流しながら、日常生活の楽しみを共有していくことにより、町全体で連帯感と絆が生まれ、新たな町づくりができるものと思います。

支援者の方々から、「大変厳しい財政状況」や「スタートから副町長もいない」、「荒波の船出」とも言われていますが、東栄の変化を望む声が選挙結果に表れています。これを難局と思わず、皆さんと共に町民の期待に応えられる町政運営をしていきたいと思っています。選挙で掲げた公約の実現に向けて一つひとつ精査して進めていきます。町民から見える町政運営、町民に開かれた街を目指したいと考えております。

職員の皆さんの考え、気持ち、行動が常に町民の方を見ていれば、どのような場合でも選択に間違いはないと思います。私や上司の顔色をうかがうことなく、町民の方を見て仕事をしてもらいたいと思います。

皆さんの力なくして、町の進歩や変化は望めません。新しい東栄町のために協力をお願いいたします。

私は「町民の皆さまの生活が第一」を基本理念に掲げ、町民皆さまの一声一声を大切に、誠意をもって何事にもぶれることなく、きめ細やかで、温かみのある諸施策を実現するために、身命を賭けてやり抜く覚悟であります。

職員の皆さまには、今、住民から何を望まれているのか、それを果たすためにはどうしたら良いかということ、これまでの慣例に捉われず考えてほしい。現場を自分の目を見て、新しいアイデアを提案してください。そして、それをしっかり議論し、いいと判断したら挑戦してみようではありませんか。失敗を恐れてはなりません。何もやらずにいるよりも、何かをやって失敗をしてみてください。進歩は失敗からです。

どうか職員の皆さん、町民の叡智と勇気を結集し、私と一緒に東栄町を生き生きとした町に成長させようではありませんか。

最後になりますが、職員の皆さまのますますのご研鑽とご協力を切にお願いし、町長就任のご挨拶とさせていただきます。どうかよろしくお願いいたします。

平成27年5月1日      町長訓辞